

履修モデル－1

1. 目標進路

医療薬学研究者・教育者を旨とする学生の履修モデル

2. 履修科目

区 分	授 業 科 目	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		合 計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専修科目	病態解析科学特論	4								4
	病態解析科学特殊研究Ⅰ	5								5
	病態解析科学特殊研究Ⅱ			5						5
	病態解析科学特殊研究Ⅲ					5				5
	病態解析科学特殊研究Ⅳ							5		5
関連科目	薬物治療科学特論			4						4
	海外臨床研修					集中 2				2
計		9		9		7		5		30

3. 入学目的

6年制薬学部の卒業研究において、疾病の原因となる生体変化を生理学的な観点からとらえ卒業論文を作成しました。この卒業研究に取り組んでいる際に、更にその研究の進め、より高度な研究をしたいと考え、大学院博士課程に入学を希望しました。大学院では疾病の原因となる生体変化や疾病特有の生体変化を生理学的、生化学的、分子生化学的に評価に関する研究活動を行い、博士課程修了後には、医療薬学に携わる研究者又は教育職を目指したいと考えています。

履修モデル－2

1. 目標進路

医薬品（漢方薬を含む）の適用拡大を推進する研究者を目指す学生の履修モデル

2. 履修科目

区 分	授 業 科 目	1年次		2年次		3年次		4年次		合 計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専修科目	薬物治療科学特論			4						4
	薬物治療科学特殊研究Ⅰ	5								5
	薬物治療科学特殊研究Ⅱ			5						5
	薬物治療科学特殊研究Ⅲ					5				5
	薬物治療科学特殊研究Ⅳ							5		5
関連科目	病態解析科学特論	4								4
	臨床薬学研修					集中 2				2
計		9		9		7		5		30

3. 入学目的

大学の卒業研究において漢方薬に関する研究で、漢方薬に含まれる生薬成分から新しい薬効が期待できるものと研究をしておりましたが、1年間しか研究期間が無く、成果に満足できませんでした。そこで博士課程の4年間を最大限に活用して、漢方薬の持つ作用をモニタリングし、治療上の有効性や安全性を薬理的、科学的に実証・解明したいと考え入学しました。博士課程修了後は、医薬品の適用拡大を含め、疾病の治療に貢献できるように引き続き研究者として研究所などで勤務したいと考えています。

履修モデル－3

1. 目標進路

医薬品開発技術を持つ研究者を目指す学生の履修モデル

2. 履修科目

区 分	授 業 科 目	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		合 計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専修科目	薬物動態科学特論					4				4
	薬物動態科学特殊研究Ⅰ	5								5
	薬物動態科学特殊研究Ⅱ			5						5
	薬物動態科学特殊研究Ⅲ					5				5
	薬物動態科学特殊研究Ⅳ							5		5
関連科目	基礎薬学特論*	2								2
	医療情報学特論			4						4
	医療英語特論					集中 2				2
計		7		9		11		5		32

* 基礎薬学特論：非薬学系出身者に対しては、卒業に必要な 30 単位に加え、本科目 2 単位を取得するよう指導する。

3. 入学目的

他大学の大学院工学研究科で粉体の微粒子製剤化について研究し、現在製薬会社で製剤開発に携わっています。真に患者に求められる製剤開発を行うためには、4 年間の薬学研究科博士課程において薬物送達システムや薬物の体内動態を理解する必要があると考え進学しました。博士課程修了後は、医薬品の適正使用に貢献できるよう引き続き製薬企業において製剤開発に携わり、国民の健康維持増進に努めたいと考えております。

履修モデル－4

1. 目標進路

健康増進・疾病予防を推進する公衆衛生に長けた薬剤師を目指す学生の履修モデル

2. 履修科目

区 分	授 業 科 目	1年次		2年次		3年次		4年次		合 計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専修科目	環境衛生科学特論	4								4
	環境衛生科学特殊研究Ⅰ	5								5
	環境衛生科学特殊研究Ⅱ			5						5
	環境衛生科学特殊研究Ⅲ					5				5
	環境衛生科学特殊研究Ⅳ							5		5
関連科目	医療情報科学特論			4						4
	医療英語特論			集中2						2
計		9		11		5		5		30

3. 入学目的

薬学部を卒業し、薬剤師としてその職能を活かすことを考え、就職活動をしていましたが、現代の疾病の治療期間の長さや治療法を考えると、薬剤師として治療に貢献する以外に別の角度から健康に関することで何ができないのかを思いはじめました。薬学部教育での知識から、現在の疾病の原因に、近年の食生活の変化や健康維持に誤った理解に問題があると感じ、薬剤師には広く国民に対して健康に関する啓蒙活動をする義務があると考えました。そこでまず自分自身が健康に及ぼす様々な外的リスクの特定とリスク発生のメカニズムに関する判断基準を持つことが必要と考え、博士課程に進学をしました。博士課程終了後には地域に密着し、自信を持って地域健康増進・疾病予防に貢献できる薬剤師になりたいと思っております。

履修モデル－5

1. 目標進路

医療行政を推進する薬剤師を目指す学生の履修モデル

2. 履修科目

区 分	授 業 科 目	1年次		2年次		3年次		4年次		合 計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専修科目	医療情報科学特論			4						4
	医療情報科学特殊研究Ⅰ	5								5
	医療情報科学特殊研究Ⅱ			5						5
	医療情報科学特殊研究Ⅲ					5				5
	医療情報科学特殊研究Ⅳ							5		5
関連科目	環境衛生科学特論	4								4
	海外臨床研修					集中2				2
計		9		9		7		5		30

3. 入学目的

薬学部で薬物治療に関する知識・技能を学び、薬物治療を通して社会に貢献することを考え、就職活動をしていましたが、薬物治療を学ぶとともに、医療行政に関しても知識が増え、現状の法制度の下では薬物治療の制限や社会保険制度に多くの問題を抱えていることを知りました。そこで薬剤師の立場から医療行政を深く理解することが必要と考え、博士課程に進学をしました。博士課程終了後は、医療行政に携わる機関で薬剤師として薬物療法や医薬品の承認等の医療の問題点を改善することで、国民の健康維持増進に努めたいと考えています。

履修モデル－6

1. 目標進路

がん専門薬剤師を目指す学生の履修モデル

2. 履修科目

区 分	授 業 科 目	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		合 計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専修科目	薬物治療科学特論			4						4
	薬物治療科学特殊研究Ⅰ	5								5
	薬物治療科学特殊研究Ⅱ			5						5
	薬物治療科学特殊研究Ⅲ					5				5
	薬物治療科学特殊研究Ⅳ							5		5
関連科目	臨床腫瘍学特論		2							2
	がん薬物療法学特論				2					2
	緩和医療学特論						2			2
計		7		11		7		5		30

3. 入学目的

薬学修士号を持ち、病院薬剤部に勤務する臨床薬剤師です。医療チームの一員としてがん薬物治療に取り組む中で、副作用や新たな治療法などに関する最新の医療情報をチームに提供し、薬物治療の最適化をすすめる重要性を強く感じ、博士課程進学を希望しました。博士課程卒業後は、引き続き医療現場で、高度ながん薬物治療の専門性を持つ薬剤師として、安全で有効な薬物治療に貢献したいと考えております。